

平成 30 年 8 月 28 日現在

機関番号：24501

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24242015

研究課題名(和文)チベット語最古層の形成とその構造推移—データベース解析による辞書と歴史文法の編纂

研究課題名(英文)Formation of the Oldest Layer of Tibetan and Its Historical Transition

研究代表者

武内 紹人 (TAKEUCHI, Tsuguhito)

神戸市外国語大学・外国学研究所・名誉教授

研究者番号：10171612

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 37,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、チベット語の最古層である7世紀から10世紀の碑文・紙文書・木簡を網羅的に解読整理し、データ解析することにより、基本的な言語構造とそれが多民族的社会背景で成立した経緯を解明した。

また、チベット文字で書かれた未解読文献であるシャンシュン語、ナム語の解析も行い、統計処理分析を導入することで各言語間の親疎関係について見通しを得た。さらに、古チベット文献につづくカラホト出土文書についてもカタログを作成し出版することで、11世紀から20世紀への変化をあとづけることができた。

その結果、最古層のチベット語の基本構造の解明とそこから歴史の変遷を踏まえた歴史文法を構築することができた。

研究成果の概要(英文)：The oldest layer of the Tibetan Language, i.e. Old Tibetan, was produced from the 7th century on. In this project, various genres of Old Tibetan texts were deciphered and linguistically analyzed. As a result, not only the synchronic linguistic structure of Old Tibetan, both colloquial and literal, but also its sociolinguistic variations, i.e. produced in multi-linguistic grounds, were made clear. Zhangzhung and Nam, two yet undeciphered languages written in Tibetan script, were also analyzed. The Tibetan texts from Kharakhoto, which followed the Old Tibetan texts and lasted till 20th c., were catalogued and published.

Through these researches, we have reconstructed the linguistic structure of the Old Tibetan language and also outlined its historical development till the modern period.

研究分野：言語学

キーワード：チベット語 古チベット語 チベット・ビルマ諸語 歴史文法 シルクロード 歴史言語学 Zhangzhung 語

### 1. 研究開始当初の背景

チベット語が7世紀に成立する経緯は、3つの視点から注目・研究されてきた。(1)チベット語の最古の文献である古チベット語文書の解読と解析、(2)チベット語と分離する以前のチベット・ビルマ系諸語との関係、(3)古チベット語から現代語諸方言への歴史の変遷。

そのいずれについても世界的に研究が進展し、データが積み重ねられてきた。とくに(1)の古チベット語文献の研究は、代表者(武内)のグループが世界をリードして研究データを作成してきた。これらの蓄積をもとに総合的な解析と統合が求められる状況にあった。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、上記の従来の研究データをもとにさらに網羅的にデータを補完の上、総合的にデータ分析を行ったうえで、チベット語最古層の言語構造を解明することである。同時に古チベット語が用いられた社会言語学的な背景を分析することで、古チベット語を立体的に再構築する。そして、そこから現代の諸方言への歴史の変遷を跡づけることを通して、チベット語の古層から現代に至る歴史文法を構築することである。

### 3. 研究の方法

研究の柱である(1)古チベット語文献の解読研究は代表者(武内)のグループが長期にわたりデータを蓄積してきたので、今回それを補完し、それを網羅的に分析する。データ作成の過程で、(2)、(3)についての情報もデータベースにもり込んでいるので、それも併せてチベット語最古層を重層的に解明・再構築していく。

### 4. 研究成果

本研究では、チベット語の最古層である7世紀から10世紀の碑文・紙文書・木簡を網羅的に解読整理し、データ解析することにより、基本的な言語構造とそれが多民族的な社会背景で成立した経緯を解明した。

また、チベット文字で書かれた未解読文献であるシャンシュン語、ナム語の解析も行い、統計処理分析を導入することで各言語間の親疎関係が明らかになり、今後の解読について見通しを得た。

さらに、古チベット文献につづくカラホト出土文書についてもカタログを作成し出版することで、11世紀から20世紀への言語変化をあとづけることができた。

現代語方言についても蓄積したデータを分析し古語と比較対照することにより、古チベット語から現代までの口語の変遷を跡づけることが出来た。

その結果、最古層のチベット語の基本構造の解明とそこからの歴史の変遷を踏まえた歴史文法を構築することができた。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計14件)

IKEDA, Takumi. A Phonological Sketch of a Tibetan Khams Dialect Spoken in Mingyong Village in the Yunnan bDe chen Tibetan Autonomous Prefecture. 岩尾一史、池田巧(編)『チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開』京都大学人文科学研究所. 2018年3月. 413-437頁.

星 泉 「チベット語の未完了継続相の助動詞句の歴史的推移——古チベット語から現代チベット語まで」池田巧・岩尾一史(編)『チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開』京都大学人文科学研究所. 2018(査読有).

SHIRAI, Satoko. 2018. The possibility of borrowing basic pronouns in minority languages of the Western Sichuan Ethnic Corridor. *Tokyo University Linguistic Papers* 39: 265-285.

NAGANO, Yasuhiko. Cogtse rGyalrong. "The Sino-Tibetan Languages (Second edition)", pp. 572-596. London: Routledge. 2017.

NISHIDA, Ai. Old Tibetan Scapulimancy *Revue d'Études Tibétaines* no. 37, pp. 262-277, 2017.

SHIRAI, Satoko. A geolinguistic approach to Tibeto-Burman vocabulary: A case study of 'sun' and a future perspective. In: Hiroyuki Suzuki and Mitsuaki Endo (eds.) *Studies in Asian Geolinguistics, Monograph No. 2*, pp. 34-50. Fuchu: ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies. 2017.

池田 巧. 俯觀藏羌彝走廊的語言分布及其相關的研究課題)張曦、黃成龍(主編)《地域社會深描 藏羌彝走廊研究新視角》北京: 社會科學文獻出版社. 2017. pp. 001-019.

西田 愛. 「敦煌出土銅錢占卜文書について」『敦煌寫本研究年報』(京都大学 人文科学研究所)第11號, pp.135-152, 2017.

TAKEUCHI, Tsuguhito. Varieties of Tibetan Texts from Khara-khoto and Etsin-gol: An Introductory Remark. Coauthored by Maho Iuchi. In Orna Almgö (ed.) *Tibetan Manuscript and Xylograph Traditions The Written Word and Its Media within the Tibetan Culture Sphere*.

INDIAN AND TIBETAN STUDIES 4.  
Department of Indian and Tibetan Studies,  
Hamburg: Universität Hamburg, 2016)  
321-346.

白井 聡子 2016年3月, 「ダバ語の名詞句と修飾構造」, 池田巧(編)『シナ=チベット系諸言語の文法現象1 名詞句の構造』pp. 27-35, 京都大学人文科学研究所.

池田 巧. 〈木雅語作格特徴〉張曦、黃成龍(主編)《地域稜鏡 藏羌彝走廊研究新視角》北京: 學苑出版社. 2015年1月. 021-033頁.

TAKEUCHI, Takeuchi, The Function OF Auxiliary Verbs in Tibetan Predicates and their Historical Development. In Roberto Vitali (ed.) *Trails of the Tibetan Tradition*. Amnye Machen Institute, Dharamshala (H.P.), India: 401-415, also in *Revue d'Etudes Tibétaines*, numero 31 – Février 2015.

HOSHI, Izumi, The Flow of Eastern Tibetan Colloquial into Middle Tibetan”, *Journal of Research Institute* Vol. 49 Historical Development of the Tibetan Languages, 71-83.

NISHIDA, Ai, "Bird divination in Old Tibetan texts" *Current Issues and Progress in Tibetan Studies: Proceedings of the 3rd International Seminar of Young Tibetologists*. 『神戸市外国語大学研究年報』第51号, pp.317-342, 2014.

〔学会発表〕(計7件)

TAKEUCHI, Tsuguhito. Introduction: Formation of Old Tibetan and its Historical Development. International Seminar on Tibetan Languages and Historical Documents (,国際学会) 2017.

TAKEUCHI, Tsuguhito. Old Zhangzhung and Nam: Undeciphered Languages written in Tibetan Script. International Seminar on Tibetan Languages and Historical Documents(国際学会) 2017.

TAKEUCHI, Tsuguhito. Tibetan Dialects and Tibetan related Languages in Bhutan. International Seminar on Tibetan Languages and Historical Documents(国際学会) 2017.

TAKEUCHI, Tsuguhito. Tibetan Language and Buddhism. Tsinghua

University 清華大学(招待講演) 2017

TAKEUCHI, Tsuguhito. Formation of Tibetan Civilization. Sichuang University 四川大学(招待講演) 2017.

NAGANO, Yasuhiko, Status Quo of the Zhangzhung **Linguistic** Studies in Japan. (武内紹人と共著: 2015年9月北京の中国国際象雄文化学術研討会で発表: 現在印刷中)

HOSHI, Izumi (2013) “The Function of the Sentence Final Particle =pa in Middle Tibetan”, The 13th Seminar of International Association of Tibetan Studies, 2013年7月22日, University of Bergen.

〔図書〕(計3件)

TAKEUCHI, Tsuguhito and Maho Iuchi, *Tibetan Texts from Khara-khoto: Descriptive Catalogue*. *Studia Tibetica* 48, Tokyo: Toyobunko, 2016, iv + 561 pp.

星泉 (2016) 『古典チベット語文法: 『王統明鏡史』(14世紀)に基づいて』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

武内紹人 『チベット語文法研究』神戸市外国語大学研究叢書第57号, 2016年3月, iv + 186 pp.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

武内 紹人 (TAKEUCHI, Tsuguhito)

神戸市外国語大学・外国学研究所・名誉教授  
研究者番号： 10171612

(2)研究分担者

長野 泰彦 (NAGANO, Yasuhiko)  
国立民族学博物館・名誉教授  
研究者番号： 50142013

白井 聡子 (SHIRAI, Satoko)  
筑波大学・人文社会系・日本学術振興会特別研究員  
研究者番号： 70372555

星 泉 (HOSHI, Izumi)  
東京外国語大学・アジアアフリカ言語文化研究所・教授  
研究者番号： 80292994

池田 巧 (IKEDA, Takumi)  
京都大学・人文科学研究所・教授  
研究者番号： 90259250

西田 愛 (NISHIDA, Ai)  
神戸市外国語大学・外国学研究所・客員研究員  
研究者番号： 90723693

(3)研究協力者

林 範彦 (HAYASHI, Norihiko)

岩尾 一史 (IWA0, Kazushi)